

令和 3 年度 東京都立戸山高等学校学校経営計画

校 長 決 定

I 目指す学校

本校は、創立以来 133 年もの輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、「国際社会に貢献するトップリーダーの育成」をグランドデザインとして位置づけている。そのために、全教職員が、以下の目標を共有し、教育活動のあらゆる場面において、その実現に向けた取組みを進める。

(1) 幅広い教養と総合力を培う教育の推進

文系・理系を問わず、学問に対する興味・関心を抱かせ、カリキュラム・マネジメントにより学ぶ意欲を向上させる授業を行うことにより、以下の 6 つの力を重点的に育成したい資質・能力とする。

① 情報活用力（選択する力） ② 探究力（考える力） ③ 情報発信力（伝える力） ④ 傾聴力（受け入れる力） ⑤ 行動力（解決する力） ⑥ 創造力（生み出す力）これらは、社会で必要な基礎的・汎用的能力として重点的に育成する。

(2) 自主学習の推進と文部両道の実現

生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、学習を中心に置きつつ、学校行事や委員会活動、部活動等への積極的な参加を通じて、社会的自立と社会貢献への意欲と能力を育むことができるよう、積極的な支援を行う。

(3) 強い意志と高い志の育成

本校独自のキャリア教育やガイダンス等を通して、自らの可能性を信じ、社会に貢献しようとする意思と能力、高い目標を設定し、その実現を目指すマネジメント力、意思決定能力の育成をする。

II 中期的目標と方策

進学指導重点校として生徒の高い進路希望の実現に取り組んだ結果、令和 2 年度は、東大現役合格者 8 名、難関国立大学（国公立大学医学部医学科を含む）現役合格者 33 名、国公立大学現役合格者 145 名、4 年制大学現役進学率 74.1% という進学実績を上げることができた。

このような成果を踏まえ、将来のグローバル化社会におけるトップリーダーの人財育成のためには、戸山の伝統である幅広い知識・教養と創造力を育む教育、戸山高校に課せられた、スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSH）とチームメディカル（以下、TM）のミッションを踏まえ、過去の成功体験から脱却し、STEAM 教育の実践、SDGs を意識した教育活動の実現だけでなく、「情報活用能力」や「意思決定能力」の育成や Society5.0 時代に対応した「探究活動」を充実させた教育活動を実行する。

そのためには、以下の 3 つの教育実践に、全教職員が一丸となって取り組んでいく。

(1) 『「未来の東京」戦略ビジョン』を意識した学校経営を行い、Tokyo スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）の実現を目指す。

(2) 新学習指導要領に基づきカリキュラム・マネジメントの実践により全教職員が一斉授業の知識注入型教育、「正解主義」「同調圧力」から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」（パッシブからアクティブ）な授業展開を行い、自ら考え、課題解決ができるような学力を育成する。

- (3) 教育活動全体を通して、生徒が活動する場面を多く設定することで、知識・理解、暗記力を問う教育ではなく、新たな高大接続改革に対応した思考力・判断力・表現力・創造力・洞察力の育成や「ことの本質を見抜く力」の育成、コンピテンシーベースを常に意識した教育活動を行う。また、教員が生徒を見守り適時適切な助言を行うファシリテーター（学習促進者）となることで、生徒に考える機会を与え、もともと持っている豊かな潜在能力を最大限に引き出す。
- (4) 新型コロナウイルス感染拡大状況において、学校教育におけるパラダイムシフトを意識した学校経営並びに教育活動を行い、GIGAスクール構想の実現に向けた取組みを行う。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

テーマ 進学指導重点校としての「授業改善」と『令和の日本型教育の構築』に向けた「情報の共有化」

1 教育活動の目標と方策

(1) 学校経営・組織マネジメント

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 学校組織マネジメントを意識した学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ① 校務分掌を中心とした様々な業務のシンプル化、「見える化」を図り、全教職員が内容を把握できるようにする。 ② マンパワーに頼ることなく、組織（チーム）として課題解決に向けた仕事ができるような計画的な人財育成と人財配置（人事異動）を実施する（属人的な仕事から、チームとしての組織的な分掌業務への移管）。 ③ データ・ファクト・ロジックに基づいた学校経営・校務分掌の推進 ④ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中） ⑤ 教職員の勤務時間の負担軽減を考慮した働き方改革の実現
イ 新型コロナウイルス感染拡大防止等に対応した安心・安全な学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルス感染拡大防止等に対応した弾力的な教育課程の編成 ② パラダイムシフト（枠組みの転換）における授業のあり方の検討・オンライン学習等、ICTを活用した学習環境の確保 ③ 生徒の健康面を意識した学校行事の再編成（延期もしくは中止） ④ デジタルデバイドを意識した情報発信（あらゆるメディアを活用した情報発信）
ウ カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ① R P D C Aを意識した教育課程の編成 ② 教科横断型の教育課程の編成 ③ グランドデザインに基づく、全教科・全単元のルーブリックの作成と教科毎に評価規準を統一した観点別評価の試行
エ Tokyo スマート・スクール・プロジェクトの実現	<ul style="list-style-type: none"> ① Wi-Fi 環境の整備により、ICTを最大限に活用し、費用対効果、時間対効果を考えた教育活動を行うために、Microsoft Office365 を活用した、学校評価やアンケート集計等の実施や部活動指導員のアウトソースを活用する。 ② 職員会議等の会議におけるペーパーレス化と完全な電子起案化の推進 ③ 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇15日以上を取得する。

オ 特色化を意識した教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ① 進学指導重点校としてのトップランナーを目指す新教育課程の編成 ② S S H及びT Mのシンプルかつ分かりやすい事業構築（「見える化」） ③ 総合的な探究の時間（人間と社会）における体験活動の再構築（清掃活動等の奉仕的内容の取りやめ） ④ S S HとT Mと連動したS T E A M教育の検討並びにS D G sを意識した教育活動の実施 ⑤ 主体的・対話的・深い学びの実現による教科横断型「知の探究Ⅱ」（総合的な探究の時間）を中心とした全校体制による探究活動の充実
-------------------	--

（２）学習活動

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 「東京型教育モデルの実現」	<ul style="list-style-type: none"> ① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験から脱却した主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実践 ② Teams や Forms 等の Office365 を活用した授業実践、及び模試のビックデータを活用した個に応じた学習指導の実施
イ 新学習指導要領に対応した授業展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 同一科目担当者毎の評価規準を改め、全定期考査の共通問題化により観点別評価を含めた学習評価の評価規準を統一 ② 新たな科目に対応した教材研究の開始 ③ 大学入学共通テストに対応した学校設定教科・科目の設定
ウ 進学指導重点校としての学力向上に向けた組織的、継続的な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 習熟度授業及び少人数授業、夏期講習等により個々の生徒の学力、進路希望先に合わせた学習指導の推進 ② 成績上位層に向けた授業実践と「高い志望形成」に対する個別指導（下げない指導）の充実 ③ 入学時からの学力の定点観測と「学力進路データベース」の整備により個々の生徒の状況を全教員で共有し、学力の向上と進路希望の実現 ④ 授業のプロとしての50分の授業における寝かさない授業、他教科学習をさせない授業の実践 ⑤ 相互授業参観期間を活用した指導教諭並びに進学指導研究生を中心とした全教科による授業研究の実施
エ A I時代に対応した学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① リーディングスキルテストの結果に基づき、すべての教科において、読解力を育成するための授業内容の再構築 ② 読書活動を通じた思考力・判断力・表現力・創造力の育成 ③ G I G Aスクール構想スクールを意識したB Y O Dを中心としたタブレット端末等の活用や Teams 等を活用した授業展開の実施
オ 英語教育推進校として4技能をバランスよく育成し、将来国際社会に貢献できる人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① オンライン英会話やJ E Tの活用等により、特に「聞く」「話す」力の育成 ② 4技能を測定する外部検定試験（G T E C等）を1学年、2学年全員に受験させ、総合的な英語力を育成 ③ J E Tを活用し、現代英語として適切な表現ができる力の育成とともに

	<p>に、理数論文等でも的確な表現ができる力の育成</p> <p>④ TGG (Tokyo Global Gateway) を活用したアウトプット場面の設定</p>
カ SSH第Ⅳ期指定校としてのSSH事業の一層の充実	<p>① SSHクラス以外の生徒が学校設定科目「知の探究Ⅱ」の履修に向け、1学年で行う「知の探究Ⅰ」の充実</p> <p>② 科学の甲子園等のコンテストでの上位入賞、生徒の英語での研究発表回数増加</p> <p>③ 生徒研究成果合同発表会と理系女子交流会（マリーハウス）の開催</p> <p>④ テレビ会議システム等を有効に活用しながら、海外を含む研究機関や大学等との共同研究や直接交流、他のSSH校との連携強化促進</p> <p>⑤ 全生徒を対象にSSH講演会や教科融合（連携）型の講義、ワークショップの実施により、理数リテラシーの育成並びにプレゼンテーション能力の育成</p>

(3) 進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 進学指導重点校としての1学年からの系統的、組織的な進路指導	<p>① 学習ガイダンス等の丁寧な実施により、入学時の高い進学目標を維持させ、目標達成に向けた努力を促す。</p> <p>② ビックデータを活用した進学対策会議を中心に志望校検討会議も活用しながら進路部を中心に学年と教科が個々の生徒の情報を共有することで、組織的な学力向上と希望進路の実現を図る。</p>
イ 長期休業期間中の講習参加生徒の増加	<p>① 各教科で講習内容を検討し、全員体制で効果的な講習を実施する。</p> <p>② 長期休業日中は、部活動、学校行事の準備より講習を優先するように生徒指導を行い、講習参加者の増加を目指す。</p> <p>③ 早い時期に長期休業日中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画の作成を促す。</p>
ウ TMの取組みにより、医学部医学科進路希望者への進路実現	<p>① クラウド等を活用して、個々の生徒の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握した指導を実施する。</p> <p>② 在京の医科大学や医学系研究機関、病院等と連携し、オンラインを含めた生徒向けの講演会、見学会、体験実習等を実施し、課題研究と研究発表会を実施する。</p> <p>③ 1学年から十分な自主学習時間を確保させ、文系科目も含めて基礎基本を取りこぼすことなく学習させる。</p> <p>④ TMに参加していない生徒も含め、医学部医学科に対する進路情報を提供し、自分に合った大学を受験できるように支援する。</p>
エ キャリア教育の重視	<p>① 学校外の機関や卒業生等からの支援等、外部人材を活用し、進学校としてのキャリア教育の充実を図る。</p> <p>② 進学指導重点校としてのミッションだけではなく、社会との接続（トランジション）を意識した見えない学力や見えにくい学力（コンピテンシー）の育成を図る。</p>

(4) 生活指導

今年度の取組目標	具体的な方策
ア SNSの適切な利用促進に関する指導の徹底	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS戸山ルール」の徹底を図る。
イ 体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底	① いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施するとともに、特に部活動において顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を根絶する体制を構築する。 ② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。
ウ 戸山ならではの生活指導の充実	① 「自主自立」という名の丸投げや放任ではなく、見守る体制を取りながら、学校生活の充実に向け、生徒自らルール作り等ができるように導いていく。

(5) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	具体的な方策
ア ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事を通じた生徒の主体性の育成	① 本校の伝統である「自主自立」の精神を踏まえ、生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志決定により、問題をよりよく解決していけるよう支援する。 ② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質の確保と行事終了後は速やかに学習中心の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。 ③ 特別活動終了後は、必ずリフレクション（振り返り）を行うとともに、Forms等の活用によりアンケートを実施し速やかに次年度に向けた反省点を見出していく。 ④ 経営企画室と連携し、会計担当生徒を指導し適切な会計処理を実施する。
イ 部活動を通じた健全育成	① 「部活動に関する活動方針」や文化部・運動部活動ガイドラインに基づき、全部活動が週二日以上完全休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果を上げる合理的な活動内容や活動方法を工夫することで、自主学習の時間を確保する。 ② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方を意識した指導を実施する。 ③ 部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。 ④ 教職員の加重負担とならぬように、部活動支援員の活用と部活動の今後のあり方を働き方改革の面から検討する。

ウ 「アクティブプラン to 2020」を踏まえた体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。 ② オリンピック・パラリンピックを契機とした生涯スポーツに親しむ姿勢を育成する。
-------------------------------	--

(6) 安心・安全な環境作り

今年度の取組目標	具体的 な 方 策
ア 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助の精神を培う。 ② 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。 ③ 発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。 ④ スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。
イ 危機管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮し、校内においては3密（密閉、密集、密接）の場面を避けた教育活動を実施する。 ② アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、危機管理に努める。 ③ 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、SOSの出し方に関する教育を推進する。 ④ 学校事故の未然防止（リスク・マネジメント）と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万が一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制により、被害を最小限にとどめる。 ⑤ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待が予想される生徒の安全を確保する。
ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止対応	<ul style="list-style-type: none"> ① 自宅における毎日の検温の徹底と Teams での情報収集、昇降口でのサーモグラフィーカメラによる検温の実施 ② マスクの着用の徹底と昼休みの喫食時における注意喚起や手洗いと手指消毒の徹底 ③ 感染拡大防止に向けた部活動や学校行事、広報活動等への臨機応変な対応
エ 保護者との良好な「顔の見える」関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者が安心して学校教育への参画できるよう、保護者会を中心とした情報の共有化を図る。 ② ホームページを活用した保護者向け情報の発信（パスワードをかけた保護者向け文書の掲載） ③ 大学進学に向けた不安を取り除くために3学年における三者面談の全員実施（1、2学年は任意とするが、企画並びに呼びかけの広報は実施する）

	<ul style="list-style-type: none"> ④ 戸山会（保護者会）との連携の充実 ⑤ 学校評価による保護者の意向の把握
--	--

(7) 募集・広報活動

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 組織的な募集活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 本校の特色や強みをデータで提示する等、わかりやすく中学生・保護者へアピールする。 ② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、学校見学会だけでなく、学習塾の出張説明会等積極的に広報活動を実施する。 ③ 私立高校を意識した学校案内の刷新や「まなびゅー」やYouTube等の動画の活用等、イメージ戦略を整える。 ④ 総務部だけが行うのではなく、学校説明会や学校見学会の広報活動は全校体制で、学校行事として経営企画室職員を含めた全教職員が必ず関わりをもつ。
イ ホームページを中心とした広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校情報を適宜ホームページ掲載等、広報活動を充実させる。 ② カウンター機能を重視し、アクセス件数を把握することで、中学生や保護者の動向を探る。 ③ 在校生やその保護者向けに、適切な内容を随時掲載する。

(8) 経営企画室体制

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 学校経営への参画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校経営計画に基づき、学校経営に参画し、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。 ② 教員と企画室職員が協働し、積極的な経営参画を図る。 ③ 働き方改革の一環として「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ICTを最大限活用した業務遂行をする。 ④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。 ⑤ 業務全般を理解するとともに、担当部署のスキルアップを図ると同時に課題意識を常にもち、組織的に業務改善を図っていく。 ⑥ 学校行事や保護者会活動等への積極的な参画。
イ 適切な予算執行	<ul style="list-style-type: none"> ① 計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ② 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。 ③ SSHやTM等の特別予算の計画的かつ適正な予算執行 ④ 図書館運営や施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。
ウ 関係団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者会（戸山会）との積極的な連携を図り、校務運営を支える。 ② 同窓会（城北会）と連携を図り、学校の適切な管理を行う。

2 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標 (令和2年度達成数値)
学力向上 (総合偏差値)	定点観測の11月のベネッセ模試 総合成績における総合偏差値 1年生 74以上 <u>50名</u> (48名) 68以上 <u>160名</u> (152名) 60以上 <u>300名</u> (297名) 2年生 74以上 <u>50名</u> (45名) 68以上 <u>150名</u> (141名) 60以上 <u>280名</u> (270名)
進学指導重点校としての進学実績	① 大学入学共通テスト5教科以上受験者 <u>285名</u> (273名) ② 同上760点(約85%)以上 <u>70名</u> (51名) ③ 東京大学現役合格者 <u>11名</u> (8名) ④ 難関国公立大学(東大・京大・東工大・一橋大・国公立大医学部医学科)現役合格者 <u>45名</u> (33名) ⑤ 国公立大学現役合格者 <u>160名</u> (145名) ⑥ 国公立大学医学部医学科現役合格者 <u>8名</u> (6名) ⑦ 早慶上理現役合格者 <u>185名</u> (173名)
募集対策の充実	① 学校説明会(10、11月)の参加者 <u>2,900名</u> (2,724名) ② 応募倍率(推薦選抜) <u>4.55倍</u> (4.50倍) (学力選抜) <u>2.20倍</u> (2.16倍)
SSH第IV期指定校としてのSSH事業の充実	① 科学の甲子園等のコンテスト、研究発表会入賞者数 <u>40名</u> (38名) ② 生徒の英語での研究発表 <u>100件</u> (96件) ③ 授業公開、地域向け講演会、研究発表会の開催回数 <u>15回</u> (11回) ④ SSHクラス以外の生徒向け理数講演会、教科融合型の講義、ワークショップ等の開催 <u>12回</u> (10回) ⑤ 小・中学生向けの理科実験教室の開催 <u>6回</u> (5回) ⑥ 理科教員向けの理科研修会の開催 <u>5回</u> (3回) ⑦ 本校が主催するSWR(理系女子交流会)の発表校数と発表者 <u>10校100名</u> (3校63名) ⑧ 本校で開催するTSS(生徒研究成果合同発表会)の発表校数と参加者数 <u>20校300名</u> (10校209名)
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 <u>100%</u> ② 校内Wi-Fiを活用したICTによる全教職員による授業実践 <u>100%</u> ③ 全教職員によるOffice365の活用実践 <u>100%</u>